

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|---|----------------------|
| 1 8 2 | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Postoperative cognitive dysfunction in older patients with a history of alcohol abuse. アルコール中毒歴のある高齢者における術後認知障害 | |
| 執筆者 | |
| Hudetz JA, Iqbal Z, Gandhi SD, Patterson KM, Hyde TF, Reddy DM, Hudetz AG, Warltier DC. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Anesthesiology. 2007 Mar;106(3):423-30. | |
| キーワード | |
| 術後認知障害、高齢、アルコール中毒 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： 術後認知障害 (POCD) は多くの患者にみられ、QOL に重大な影響を及ぼす。POCD は心臓手術後に最も多く見られるが、高齢者の非心臓手術後の有病率もまた高い。非心臓術後の POCD の危険因子は年齢と術前の認知障害である。自己申告のアルコール中毒は術後譫妄の危険因子だが、長期の影響は明らかにされていない。この研究の目的は、アルコール中毒既往のある高齢患者において一般的な麻酔での非心臓手術後に神経認知機能が障害されるかどうか明らかにすることである。</p> <p>方法： 55 歳以上の自己申告のアルコール中毒既往者 28 人と年齢、性、教育歴を適合させたコントロール 28 人を対象とし、アルコール中毒既往者とコントロールに対しそれぞれ神経認知機能テストを手術前および術後 2 週間の 2 回にテストする群 (28 人) と手術なしで同じ期間において 2 回テストをする群 (28 人) にわけて、検査した。言語記憶、視覚空間記憶や可動機能を評価した。潜在的な脳血管障害を有する対象者を除外するために神経学的検査がなされた。</p> <p>結果： Visual Immediate Recall(視覚短期記憶能力), Visual Delayed Recall (視覚長期記憶能力), Semantic Fluency (語想起能力), Phonemic Fluency (音韻想起能力) と Color-Word Stroop Test の間に有意な 3 方向相互作用 (分散分析) があった。アルコール中毒群で手術を受けた群の認識能力が、術後に他の 3 群に比較してより低下した。</p> <p>結論： 高齢者では、アルコール中毒の既往があることは QOL や健康に重要な関係のある視覚空間能力や実行機能の領域での術後認知障害の 1 つの危険因子だった。</p> | |